

氏名	小松裕和
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 3788 号
学位授与の日付	平成 21 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯学総合研究科社会環境生命科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目 Impact of Breastfeeding on Body Weight of Preschool Children in a Rural Area of Japan: Population-based Cross-sectional Study  
(日本の中山間地域における母乳栄養の学童期体重への影響：悉皆調査に基づく横断研究)

論文審査委員 教授 森島 恒雄 教授 荻野 景規 准教授 児玉 順一

### 学位論文内容の要旨

幼児期の肥満傾向に与える母乳栄養の影響を調べるために、岡山県 M 町の悉皆調査を用いた。住民台帳から 616 名の幼児を選び、両親に自記式調査票を送付し、476 名から回答を得た。曝露は生後 6 カ月までの母乳栄養について 5 段階(母乳だけ、主に母乳、同じぐらい、主にミルク、ミルクだけ)で尋ね、「母乳だけ」と「その他」に 2 値化した。アウトカムは記入された身長と体重から Body Mass Index を計算し、国際肥満会議基準から肥満傾向を定義した。多重ロジスティック回帰分析の結果からは、母乳栄養の点推定値は予防的な値を示したが統計学的には有意でなかった。調整前のモデルでオッズ比 0.70、95%信頼区間 0.30-1.64、出生時体重を調整したモデルでオッズ比 0.70、95%信頼区間 0.30-1.63、子供の生活習慣も調整したモデルでオッズ比 0.71 95%信頼区間 0.30-1.67、両親の要因も調整したモデルでオッズ比 0.46、95%信頼区間 0.15-1.37 であった。我々の研究からは、日本においても母乳栄養だけで育った子供は幼児期の肥満傾向になりにくいことが示唆された。

### 論文審査結果の要旨

本研究は、幼児期の肥満傾向に与える母乳栄養の影響を調べる目的で、岡山県 M 町にて住民台帳から幼児を選び、両親に自記入式調査票を送付し、回答を得たものについて、生後 6 ヶ月までの母乳栄養が幼児期の肥満 (BMI 基準) に与える影響について、解析したものである。結果は、統計学的には有意ではなかったものの、多重ロジスティック回帰分析では、母乳栄養が乳児肥満を防ぐことに関して、予防的な値が示された。また感度分析においても、有意差は認めなかったものの、点推定値は予防的効果を示していた。

幼児期の肥満には、生活環境、習慣、食生活など多くの要因が関与するため、本調査症例数 (476 名) では、有意差を認めるには至らなかったものと推定された。

このような視点からの疫学研究は、本邦ではなされておらず、重要な研究結果と考えられ、今後調査規模を拡大して、多面的な解析を継続していく方向性も示された。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位の資格があると認める。